

## 2018 年台風 21 号による荒廃からの漁場回復状況

井戸本純一

### 1. 目的

2018 年 9 月 4 日に上陸した台風 21 号によって荒廃した漁場の回復状況を調べるため、昨年度に引き続いて漁具に混入する礫や貝殻の量を測定した。

### 2. 方法

2020 年 6 月 3 日および 4 日に実施した資源調査において、実際の貝桁網によって船上に揚げられたサンプルをすべて持ち帰り、生きた貝類を選別するとともに礫と貝殻の重量を測定し、曳網面積あたりの密度を算出した。また、操業の困難度を直感的に表す指標として、殻長 18mm 以上のセタシジミ 20kg (トロ箱 1 杯分) を漁獲すると仮定した場合の混入量を推定した。

### 3. 結果

貝桁網に混入した瓦礫 (礫と貝殻) の量を前年度と比較すると、東岸の漁場では  $7.4\text{g}/\text{m}^2$  から  $3.5\text{g}/\text{m}^2$  に、西岸の漁場では  $20.1\text{g}/\text{m}^2$  から  $7.5\text{g}/\text{m}^2$  に減少し (表 1)、シジミ資源密度

の低迷によって相対的な障害はまだ大きいものの (図 1 および図 2)、漁場環境は回復しつつあることがうかがわれた。

表 1 2020 年の禁漁期における漁場別瓦礫混入量 (3 回の平均)

漁場	水深 (m)	瓦礫密度 ( $\text{g}/\text{m}^2$ )	標準偏差	礫率* (%)	
東岸	今西※	13.1	1.0	0.2	52
	長浜※	8.6	1.4	0.6	8
	磯※	8.2	3.5	0.7	10
	松原※	4.9	0.9	0.5	13
	石寺	8.0	1.7	0.2	6
	新海	8.7	3.5	1.7	10
	沖島東※	6.8	12.2	2.9	13
	沖島西※	13.4	2.9	1.7	86
	沖島南西※	10.4	0.8	0.2	2
	牧	8.4	8.8	2.6	33
菖蒲	4.6	1.6	0.9	52	
西岸	海津	9.7	11.4 (1回のみ)		45
	針江	10.1	2.9	2.1	55
	鴨川	14.1	8.2	3.6	85
	高島	10.5	2.1	0.4	53
	近江舞子	13.3	13.0	6.3	90
平均	東岸漁場	8.6	3.5		26
	西岸漁場	11.6	7.5		66

※主要漁場, \* 礫 / (礫 + 貝殻) × 100

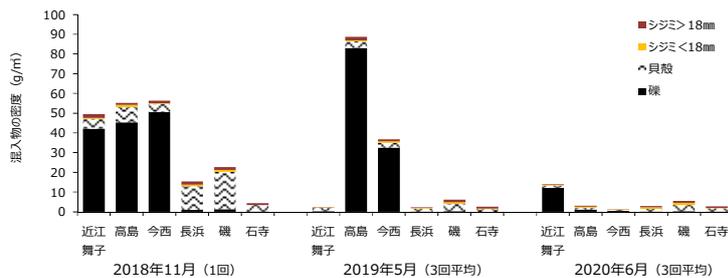


図 1 貝桁網に入網したセタシジミ (殻長別) と瓦礫の  $1\text{m}^2$  あたりの重量。

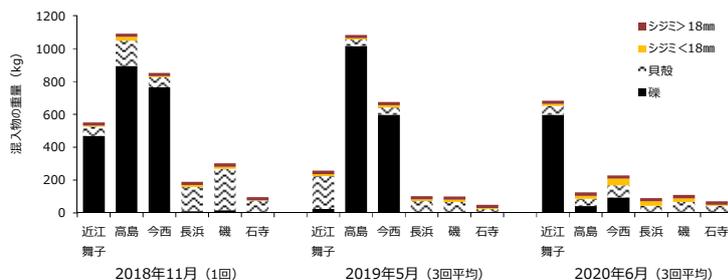


図 2 殻長 18mm 以上のセタシジミ 20kg を漁獲すると仮定した場合の瓦礫の重量。

本報告は滋賀県資源管理協議会からの調査委託事業の成果の一部である。